

出張報告

報告日 2026年7月24日

会 派 名	社会クラブ・柏崎のみらい連合
報告者氏名	佐藤正典・星野幸彦・池野里美
種 別	■調査研究（■行政視察） □研修会 □要請・陳情 □各種会議
用 務	佐渡市 行政視察
日 時	R8/4/27(月) 14:00 ~ R8/4/28(火)12:00
場 所 (会場)	① 佐渡市役所（佐渡市新穂長畝 383-2） ② トキの森公園の現地視察（佐渡市新穂長畝 383-2） ③ きらりうむ佐渡（佐渡市相川町 3 丁目浜町 18 番地 1） ④ 佐渡金山（佐渡市下相川 1305）
調査項目等	① 通年観光の工夫・取り組みについて。合併後の広域連携後について ② トキと共生のまちづくり、保護繁殖、野生復帰の取組について ③ 世界文化遺産登録について。佐渡金山の活用について。 ④ 佐渡金山の管理・保全、魅力発信について
概 要	【佐渡市役所】 ●通年観光の工夫、取組について ・佐渡市は海が荒れることによりフェリーが欠航し、冬の観光に課題がある。そこで、冬ならではの旬の食を味わえる「佐渡・まちなかグルメで夕食を！冬のキャンペーン」など地元飲食店で使えるクーポン付きのお得なプランも提案している。 ・長年の努力が実り、令和 6（2024）年 7 月、佐渡金銀山は「佐渡島の金山」としてユネスコ世界文化遺産に登録。これをきっかけとした、県内の他自治体と連携した広域観光も推進している。 ・佐渡市では、佐渡無名異焼が、令和 6（2024）年 10 月に、佐渡市で初めて国の伝統的工芸品の指定を受けている。また、「伝統的酒造り」も、令和 6（2024）年 12 月に、ユネスコ無形文化遺産に登録されている。 ・佐渡は島全体が「トキと共生する佐渡の里山」として、平成 23(2011)年 6 月に日本で初めて世界農業遺産(G I A H S)に認定されている。また、平成 25 年(2013)年 9 月に、日本ジオパークに認定されている。 ・スポーツの島として、佐渡トキマラソン、佐渡ロングライド 210、佐渡オープンウォータースイミング、佐渡国際トライアスロン大会など、島内全域を舞台にしたスポーツ大会を開催し、島内外から多くの方が参加している。佐渡市は、熊が生息していないことも魅力のひとつとなっている。

- ・佐渡は芸能の宝庫と言われるほど多くの民族芸能が伝承されている。島内には多くの能舞台が残っていて、各地で幽玄の世界を楽しめる。また、「佐渡の人形芝」は観る国の重要無形民俗文化財になっている。また、太鼓や佐渡おけさなど、古くから受け継がれてきた民族芸能など体験型の観光も提案している。
- ・自然、文化、芸能など様々な観光資源を組み合わせた観光を提案しているが、宿泊施設の不足やインバウンドの誘致などに課題もあり、様々取り組んでいるところである。

●合併後の広域連携について

- ・佐渡市は、平成 16 年に、両津市、相川町、佐和田町、金井町、新穂村、畑野町、真野町、小木町、羽茂町、赤泊町の 10 市町村が合併した。特色ある自然や文化などの観光資源を有するそれぞれの市町村であったが、合併後は、それぞれの良さをいかしながら、周遊できるようなプランを提案し広域連携している。

【トキの森公園】現地視察

- ・トキと共生のまちづくり、保護繁殖、野生復帰の取組について

【きらりうむ佐渡】現地視察

- ・世界文化遺産登録、佐渡金銀山の活用について

【佐渡金山】現地視察

- ・佐渡金山の管理・保全、魅力発信について



議場にて



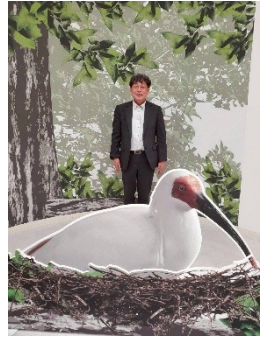
市役所内会議室



<トキの森公園内>



<餌を食べるトキ>



<トキのパネル展示>



きらりうむ
佐渡・現地
視察



佐渡金山・現地視察



所 感 等

<佐藤正典>

佐渡市役所の観光振興課を訪ね、観光施策における「通年観光」と「広域連携」の取組について調査を行った。

佐渡は2004（平成16）年3月1日に、旧10市町村が合併して佐渡市が誕生し、全島合併を果たしている。観光施策の大きな枠組みとしては、このことにより、島全体の一体感の醸成を図りながら、合併後の観光振興の取組を行ってきている。島内に分散する観光資源の点と点を結び、「面」の観光とすることにより、これを基盤としながら、通年観光の取組の強化を図り、結果として、季節に左右されずに来客数を増やし、経済効果の向上につなげていきたいとの説明であった。

佐渡市にとっての観光の課題は、冬季の閑散期の集客にあるが、この課題は柏崎市も同様である。佐渡市では、佐渡金山を核としながら、季節に左右されにくい通年観光の推進に力を入れている。観光需要が落ち込みやすい冬季については、歴史、文化、街並みといった資源の活用や、食、体験型観光の充実により、冬季間でも大きな魅力を感じ、訪れたいくなる仕組みづくりに力を入れて取り組んでいるとのことである。

今回の佐渡視察では、佐渡市役所の他、「トキの森公園」「きらりうむ佐渡」「佐渡金山」の現地視察も行ったが、大変魅力的であり、佐渡を代表する誘客施設である。こうした主要施設や、点在する観光資源を結びつけて、観光客が一つの場所で終わらず、島内を周遊する流れをつくることが、佐渡の様々な地域の魅力発信につながり、結果として観光客の増加と消費拡大への期待ができるのではないかと感じる。

佐渡市＝離島、柏崎市＝本土の違いはあるが、観光面における施策や、取り組むべき課題については共通する内容が多いと改めて実感した。今回の視察で学んだ佐渡市の多様な取組を参考として、柏崎市が魅力的かつ持続可能な観光地であるための今後の研究につなげていきたい。

<星野幸彦>

佐渡市は言わずと知れた『佐渡金山』がユネスコ世界文化遺産に長年の念願がかなって、2024年に登録された。実は同年登録直後に『議会広報広聴常任委員会』の行政視察で訪れており、登録から2年を経た違いを確認する視点でも自分にとっては、有意義な視察であったと感じる。今回の視察目的は主に『観光政策』についてであり、柏崎市においても課題となっている『通年観光』について、『世界遺産（観光資源）の活用』について、『広域連携の可能性』などについて説明を受け課題の共有や活発な意見交換ができたのではないかと感じている。通年観光の課題は、やはり冬季の交通手段であるが、大雪など雪に閉ざされる柏崎も同様に冬季は自然相手の事であり、いかんともし難い。がしかし、佐渡市も冬ならではの食をメインに集客を目指し政策を展開している。

世界遺産の活用については、「世界遺産には2通りあって、登録直後だけワッと観光客が激増するが直ぐに廃れてしまう所と、何年たっても観光客が定常的に訪れてくれる所に分けられるが、前者にならない事が最大の課題だ」ということである。いずれにしても世界遺産という観光資源を保有している事については、羨ましいかぎりである。広域連携については、『金の道』連携や新潟市とのスポーツ連携（マラソン）などを展開しているが、金の道は柏崎も通っている。柏崎も大きなマラソン大会がある。今後は是非とも連携をしていけないものかと強く感じた。

<池野里美>

佐渡市では令和6(2024)年7月「佐渡島の金山」がユネスコ世界文化遺産に登録された。世界遺産登録を機に新潟県内を周遊するツアーなど県内他自治体との連携も模索している。冬季は海が荒れやすくフェリー欠航などより通年観光に課題があり、寒ブリや加茂湖の牡蠣等、冬ならではの旬の食を味わえる店舗を巡るキャンペーンなど工夫している。また、佐渡市は自然・歴史・文化・芸術など様々な観光資源を活かした島内周遊や体験型観光にも力を入れている。当市でも、柏崎ならではの食や自然、世界文化遺産に通録された綾子舞という文化などの観光資源を組み合わせる工夫が可能であると感じた。特に、佐渡から始まる『金の道』は、主要ルートである北国街道が柏崎を通り江戸へ向かった歴史をもつ。この縁を活かし、佐渡市との連携による広域観光の可能性を探っていきたいと感じる視察であった。

	現地視察では、それぞれ、魅力発信に力を入れている事を実感できた。「トキの森公園」では、施設案内のスタッフの方が気軽に声をかけ説明してくれたり、折り紙で折った手作りのトキをくれたりと、トキの良さを伝えたい思いが伝わった。「きらりうむ佐渡」については、金山の成り立ちと歴史を映像で分かりやすくすることができる。佐渡市役所の方も言っていたが、現地を観る前に行くことでより深く金山を理解でき、ガイダンス施設として適している。金山の現地視察では、鉱山の跡地で人形を使って作業風景が再現されており、400年以上に渡って採掘が続けられてきた金銀山と、その鉱山技術の変遷を分かりやすく学ぶことができる、非常に価値のある観光資源だと感じた。新潟県民として、佐渡金銀山の魅力を発信しながら、新潟県全体の観光が盛り上がることを期待したいと感じる視察であった。
--	---